

別紙様式1

令和7年度学校経営計画

学校名 東広島市立志和小中学校

学校長名 矢原 豊祥 印

I 学校の状況

学級数	小11学級・中5学級	児童・生徒数	296名	教職員数	30名
メールアドレス	shiwa-chu@city.higashihiroshima.hiroshima.jp (小中学校)				
ホームページアドレス	www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/shiwa_chu/ (小中学校)				

II 教育目標

「夢と志をもち 果敢に挑戦し 自己実現する児童生徒の育成」

III 経営理念 (ミッション・ビジョン)

<p>【ミッション】「地域とともに未来を創る ー学校での学びを地域社会に結びつけるー」</p> <p>【ビジョン】○課題に主体的に向き合い、解決に向けた行動をとることのできる人材の育成。</p> <p>○変化の大きい世界の中で状況を把握し、目標を持ち、他者と協力して課題解決に取り組むことのできる人材の育成。</p>
--

IV 中期経営目標及び短期経営目標

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目
確かな学力	1	<p>学びに向かう姿勢を整え、育てたい資質能力“推論する力”の育成を図る。</p> <p>重点 小中一貫教育による学びの充実 地域貢献・地域活性化プロジェクト</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫・接続教育を推進し、児童生徒が安心して学習できる教育環境を整える。 eSTEAM教育を推進し、児童生徒の「推論する力」を各教科で育成する。 ICT活用の推進を図り、GIGAスクールを加速させ、児童生徒の学習意欲と興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力を向上させるため、高学年を中心に、理科・英語・音楽の乗入授業を行い、児童の状況を多面的に把握し指導に生かす。 小中の授業交流を積極的に行う。 算数・数学、生活科、理科を中核とし、「推論する力」を育成する授業づくりを小中合同で開発する。 地域をフィールドとし、推論する力を発揮できるカリキュラムを開発する。 各教科の特性に応じて、効果的にICTを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元末テストの結果分析 保護者満足度調査 児童生徒生活質問紙 学校評価等の分析 研究授業の考察等
豊かな心・健やかな体	2	<p>自立・自律し、自他のことを大切にし、自己の健康と体力について理解して、高めていこうとする児童生徒を育成する。</p> <p>重点 SSR、通級指導教室の効果的運用 部活動の地域展開 小中合同スポーツ大会等の異年齢交流行事</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の自己有用感を高め、アイデンティティの確立を図る。 食や健康について考えるとともに、自己の体力の向上に主体的に取り組んでいく児童生徒を育成する。 安全で安心できる教育環境を整える。 *市SSR生城山（おおぎやま）ルーム（小中）の充実（不登校児童生徒への対応） 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の主体性と自発性を育てるために、児童会や生徒会活動をはじめとした活動を充実させる。 児童生徒の自己肯定感を高めるために、スモールステップで成功体験を積み重ねさせるとともに、適切に評価する。 児童生徒が自らの健やかな体作りに取り組めるようにするために、児童生徒がリズムチェック週間における自己の生活を振り返り、改善のための目標を立てる時間を設ける。 不登校の未然防止のため、学級における積極的生徒指導を行う。 児童生徒理解を深めるために、スクールカウンセラーや心のサポーター等と連携するとともに、SSRを適切に運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒生活質問紙 リズムチェック週間の振り返り 新体力テスト等の結果分析 学校評価等の分析

信頼される学校	3	<p>地域とともにある学校として、信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>コミュニティ・スクールの運営体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの体制をもとに、地域連携を推進する。 ・学校HPや学校だより等による情報発信を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・ルームを拠点とした地域人材との連携や活動を実施する。 ・学校の取組や児童生徒の活動の様子を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校来校者アンケート ・学校評価の分析
働き方改革	4	<p>業務改善を推進、超過勤務時間の月平均45時間以内を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい環境づくりを推進し、教職員の健康促進を図る。 ・働きがい・やりがい等の意識の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の心身の状況を積極的に把握する。 ・児童生徒の学びや活動を充実させるために、目的を意識した指導を行うとともに、地域の協力ネットワークを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入退校記録 ・学校衛生委員会による傾向分析

V 学校評価

(1) 学校評価システムの組織（構成者を含む）

[自己評価] 学校評価委員会（構成員：校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、研究主任）

- ・学校運営協議会において学校関係者評価を行う。

(2) 自己評価及び学校関係者評価の実施計画（公表方法を含む）

- ・教職員、保護者、生徒を対象としたアンケート調査を実施し、その結果・分析等を学校通信等で公表するとともに、学校運営協議会でその客観性を問う。

- ・育てたい資質能力“推論する力”の育成を図る(ビジョン)

☆「総合的な学習の時間」をはじめ、各教科で“推論する力”の育成を図っていく。

- ・児童生徒9年間の学びと育ちを支援(ビジョン)

- ① 「小中一貫・接続教育」の推進（準教科担任制の充実）
- ② 地域課題にアプローチしていく「eSTEAM教育」による系統的な学びの実現
- ③ 「地域と連携した教育（コミュニティスクール）」による部活動の地域展開
- ④ 「ICT活用の推進（GIGAスクールのさらなる推進）」
 - ・児童生徒の主体性を育てる部活動、児童会生徒会活動の推進（ビジョン）